第4回HM講習

都市計画主導から転換を

個別のまちづくり核に

狩野文化財審議委講義

今年度第4回ヘリテージマネージャー育成講習会がこのほど、福島市の県建設センターで開かれ、県文化財審議会の狩野勝重委員が「歴史的建造物の保存と活用」について話した。

講演する狩野氏

狩野氏は、ヘリテージの理念を「二度と再生しないもの、失ってはならないものを残す」ことにあり、「残すもの」と「残るもの」との違いを説明。「残るもの」は権威がオーソライズされた建造物で、欧米では保存されるが日本では一定期間が過ぎると危険物の評価が下されてしまう。一方、「残すもの」は、残そうという意識がなければ亡失してしまうもの。単なる展示物に過ぎないものなのか、地域にとって何のために残すのか、活用できないものを残すことが難しく地域への影響を考慮して決めていくべきとした。

また「残すもの」に対応できる技術力も必要で、現状保存や移築保存など目的に合わせた「残し方」の提案や概算見積もりの提示も重要とした。42件45棟に及ぶ県文化財建造物の被災調査の中から事例を紹介した。

まちづくりについて、都市計画による先導から、個別のまちの概念からの創造への移行を提唱。豊かな発想を持つ建築技術者の果たす役割は大きく、HMが町の個性として古い建築物の活用を提言することを求めた。